

広帯域 MT 探査による富士山の比抵抗構造 (序報)

Resistivity structure around the focal area of M6.4 earthquake beneath Mt. Fuji volcano

相澤 広記^{1*}, 山谷 祐介¹, 上嶋 誠¹, 長谷 英彰¹

AIZAWA, Koki^{1*}, YAMAYA, Yusuke¹, UYESHIMA, Makoto¹, HASE, Hideaki¹

¹ 東京大学地震研究所

¹Earthquake Research Institute, Univ. of Tokyo

2011年3月15日に富士山直下でM6.4の地震が発生した。発生時期から東北太平洋沖地震に誘発された地震であると考えられる。本発表ではこの富士山直下地震震源域を中心として展開した広帯域MT探査による比抵抗構造を報告する予定である。この調査に先立つ2009年には70点の稠密AMT観測により富士山浅部(深さ2kmまで)の比抵抗構造が推定されており、富士山直下地震の浅部延長は周辺よりやや低比抵抗領域であることが明らかになっている(相澤他2011年, 連合大会)。今回の広帯域MT調査の狙いは、この浅部低比抵抗領域が震源域と連続しているかを明らかにし、誘発地震のメカニズムを推定することである。

広帯域MT調査は2011年6月から12月までMetronix社のADU07システムを用いて行った。富士山は直流電車で囲まれ劣悪なノイズ環境のため、1観測点あたり1ヵ月間データを取得し、夜間のレスポンスをスタックすることにより10kHzから1000秒までの周波数応答を求めた。観測点数は25点であり、そのうち20点は2009年度のAMT観測と測定場所を共通としてある。このため2009年度と2011年度の浅部比抵抗構造の変化についても報告する予定である。